

<奨励賞 7団体>

■ 特定非営利活動法人 絵本による街づくりの会（滋賀）

「子どもの居場所作り&コミュニティカフェダイニング事業」

<p>団体概要</p>	<p>読み聞かせや紙芝居を地域の子どもや高齢者に行うボランティアグループを母体にして、2004年に法人格を取得した。里山の自然あふれる高島市で、絵本や読書を核に、「こどもの笑顔があふれる街に、豊かな心を育む街に」を理念として、地域の子どもや子育て中の母親を応援する拠点としての「絵本美術館の開館」をめざしている。</p> <p>具体的には、定期的なお話会や、絵本の原画展、クリスマスコンサート、自然体験教室、キャンプなどを通して、地域の子どもの健全育成に貢献する活動を実施している。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、郊外の大型量販店の影響で、シャッター街となった今津駅前の商店街の空き店舗を利用して、子どもの居場所作りと、子育て中の母親や高齢者など車社会から取り残された社会的弱者の利用しやすいコミュニティカフェダイニング事業を複合的に行うものである。</p> <p>地域の子どもたちの駆け込み寺的な機能や、情報が集まりにくい虐待やいじめの早期発見、居場所のない子ども達の居場所を作ることで、子どもの成長を助ける。また、今津駅前商店街の活性化と、助け合い支え合う地域コミュニティの再生も同時に実現することを目的とする。</p> <p>具体的な事業としては、昨年度実施して好評だった絵本とお話広場「子ども居場所かめのへや」と、低価格で明るいコミュニティカフェダイニングを実施する。将来は、地域の農家から食材を仕入れ地元女性を雇用するなど、地域内の循環経済システムへの発展を展望している。</p>
<p>講評</p>	<p>本事業では、これまでの子どもの居場所作り事業に加えて、コミュニティカフェダイニング事業との複合店舗とすることで、新しい層を商店街に呼ぶ試みである。過疎化傾向にある中で、シャッター街となった駅前商店街の賑わいと子どもの歓声を取り戻そうという取り組みについて、子育てとまちづくりをセットしたところが高く評価された。また、滋賀県や高島市との連携や地域のバックアップもあり、実現性や資源の活用の面での強みもある。</p> <p>今回の助成を機に事業を充実することで、今後は地域再生のシンボリックな存在になることを期待したい。</p>

■ 特定非営利活動法人 環境市民（京都）

『やってみよう！エコ地蔵盆』～地域行事の環境配慮からコミュニティづくりへ～

<p>団体概要</p>	<p>現在の環境問題の多くは、私たちの暮らしの場面に原因があり、様々な視点から問題を考え、総合的に取り組む必要がある。単に、行政や企業を批判するだけでなく、調査研究に基づいて具体的な政策等を提案し、パートナーシップによる地域社会の課題を解決するNGOの必要性を感じて、1992年に設立。現在では、環境問題に関わる日本の中心的な市民活動団体として、環境首都コンテストなどを始めとする幅広い活動を展開している。</p> <p>持続可能で豊かな社会をめざし、以下の5つをミッションとしている。</p> <p>①エコシティーをつくる、②経済をグリーンにする、③豊かなライフスタイルを提案する、④エコロジーな次世代を育む、⑤世界の人々やNGOと協働する。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、伝統行事の地蔵盆に、環境配慮の視点を取り入れることで、地域から環境問題の解決の行動と、そのプロセスによるコミュニティ力の向上が、子ども達が健やかに育つ社会へとつながることを目的としている。</p> <p>地蔵盆は、子どもの健やかな成長を願う地域の伝統行事であり、子どもにとっても、大切にされていることを感じ、地域での位置づけを得る機会であるが、近年、少子化や住民関係の希薄化等から、本来の姿を失いつつある。一方、行事においては、多量の使い捨て容器等のごみが出され、アレルギーの原因とも考えられる食品添加物を含む菓子類が提供されるなど、健康面の課題もある。</p> <p>具体的には、冊子「やってみよう！エコ地蔵盆」やウェブサイトで情報を発信し、自治連合会や小学区程度のモデル地区を設定・実施して、これまでの町内単位から面に広げる事業とする。実施後には、インタビューや環境負荷の少ない商品を扱う店などの情報を発信することで、さらに他地域への波及につなげる。</p>
<p>講評</p>	<p>伝統文化に環境問題を織り交ぜ、子ども達が健やかに育つ、コミュニティ・社会づくりを地域に根ざしながら実践している点が高く評価された。</p> <p>また、冊子の作成を始め、これまでの取り組みをさらに進めていこうと、モデル地区を設定して町内単位から学区まで面的な広がりを持たせようとしている点に、創意工夫と意欲も感じる。京都の伝統行事を通じて、環境教育を子どもだけでなく、家庭に意識させていく視点は、環境NGOならではの取り組みでもある。</p> <p>今後、地蔵盆の取り組みだけでなく、様々な地域行事・イベントにも応用できる内容であり、モデル事業として周辺の自治体や地域に広げていけるものとしても期待したい。</p>

■ こうべ子どもにここ会（兵庫）

「外国人児童のための遊びながら学べる漢字・語彙教材の開発・作成および親子学習会の開催」

<p>団体概要</p>	<p>東灘日本語教室に大人に混じって子どもの数が増えた。子ども達には、発達段階に応じた対応が求められ、様々な関係機関と総合的な視野で支援を行うため、日本語教室から独立して活動を開始した団体である。</p> <p>主に東灘地域に住む多様な文化的・社会的な背景を持った子ども達を日本語・教科学習、母語教室を通じて、子ども達のアイデンティティを保持し、自分自身や自文化に対する誇りを持てる環境作りをめざしている。</p> <p>具体的な活動としては、日本語・教科支援教室、スペイン語母語支援教室、心のケア事業、居場所作り事業、ネットワーク作りなどを、東灘日本語教室と多文化共生センターひょうごと事務所をシェアしながら、連携の下に活動している。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業では、非漢字圏の外国人児童が、親子一緒に家庭でも学べる漢字・語彙学習教材を開発し、家庭での独学習体制の構築をめざすものである。</p> <p>現在、外国人児童の日本語教育は生活言語の習得が優先しており、サポート体制も、生活に支障がない程度の言語能力がつくまでがほとんどである。しかし、その先の課題として教科学習に必要な日本語能力の習得があり、特に漢字を使用しない言語圏の子ども達にとって、漢字学習の負担は大きく、将来的な生活力の向上に対する支障につながっている。一方、子ども達の保護者の多くは共働きであり、経済的問題から学習環境を整えられずにいる。</p> <p>具体的には、カード形式で遊びながら学べる漢字や豊富な語彙の習得教材を開発・作成し、親子学習会にも取り組むことで、子育てと教育をサポートし、保護者と連携して取り組むことを内容としている。</p>
<p>講評</p>	<p>外国人にとって、日本における生活力として、言葉の面の支援は重要であり、特に神戸ではニーズの高いところである。行政などでの支援では親向けの支援が多い中、子どもの言語能力を高めるところに着目した先進性や独自性が高く評価された。また、非漢字圏の外国人児童と対象とする本事業は、対象者数は多くないものの地域のマイノリティに寄り添う市民活動らしい活動であると言える。</p> <p>学習会を通して保護者が連携することで、子どもが楽しく、安心して学習することが出来る。子どもの通訳力は高いことから、子ども自身が家庭や地域周辺での通訳者にも成りうるもので、今後の広がり期待したい。</p>

■ 特定非営利活動法人 女性と子育て支援グループ・pokkapoka（大阪）
「大阪市 子育て応援ポータルサイトの構築」

<p>団体概要</p>	<p>少子化の進行により、子育て環境の変化や地域の力の喪失、行政での様々な施策が行われる中、虐待は増加の一途にある。そのような中で、子育ての中の親達が孤立せず横のつながりの必要性和、地域でのあらゆる世代が安心してあたりまえに生活できるように、1999年にサークルとしてスタートした。その後は任意団体を経て、2006年に法人格を取得し、さらに活動範囲を拡大している。</p> <p>主な活動は、交流・情報提供の場のひろば活動、一時保育、産前産後のデイケア、病中・病後児保育などの保育サポート、保育ルームでの認可外保育施設の運営、居場所を作る放課後広場、子育て中の母親や妊婦向けの手作り講座の開催、ぽっかぽか助産院など多様な活動を行っている。</p>
<p>事業概要</p>	<p>行政などから子育てに関する情報発信は行われているが、親たちが知りたいと思う情報はまだまだ手元に届かない状態がある。</p> <p>本事業は、大阪市の子育て情報を掲載したサイトを構築し、情報発信を通じて、子育て中の親やその家族の負担を軽くすることで、不安や子育て放棄、虐待の減少を目的とする。また、子育て中の親も広く社会に参画してもらうことを狙いとしている。</p> <p>具体的には、子育て情報掲載のポータルサイト（PC用・携帯用）や、子育て応援マップを作成する。主な掲載内容は、①緊急時の情報、②妊娠～出産までの情報、③子どもと親の身体の情報、④子どもを預けたい時の情報、⑤お出かけ情報、⑥母親のための自分磨き情報、⑦子育て支援の情報、⑧ママさん口コミ情報などで、親が欲しいと思う情報を掲載し、いつでも入手できるようにする。</p>
<p>講評</p>	<p>情報ポータルサイト自体はいくつもの先例はあるが、本事業では、これまでの活動で培った子育て支援団体とのネットワークを活かして、利用者に近い、ニーズに寄り添った視点での情報提供であることが、他にない強みであり、可能性であるとして高く評価された。</p> <p>大阪市内の各区で母子健康手帳交付時や、産後の母子訪問での情報提供を計画しており、孤立している親など、支援を必要としているところに届く工夫も行われている。これは事業の目的を果たすためにも重要なポイントであり、是非、多くの親達に情報が広がることを期待したい。また、今後は、情報収集や運営体制を高めるとともに、充実した情報が更新されるサイトとして継続して欲しい。</p>

■ 特定非営利活動法人 南紀こどもステーション（和歌山）

「ぶれくまぐすじゅく～大地のいぶきを感じる親子ワークショップ～」

<p>団体概要</p>	<p>現在の子ども達は、大人社会と同様にゆとりをなくし、社会性の不足や倫理観の低下が問題となっている。頭と体を使って仲間と関わりながら共に楽しく創り出し、遊びをたっぷり経験することで、子どもも大人も心豊かに成長していけると考える。</p> <p>前身である田辺親子劇場は 33 年前に発足し、8 年前に法人格を取得してより公益的に活動する。主な活動としては、五感を使った自然体験の熊楠塾、集団遊びとものづくりを体験する「あそびのひろば」、田辺市からの委託による子育て支援事業などを行う。</p>
<p>事業概要</p>	<p>これまでの小学校 3 年生以上の自然体験プログラムを発展させて、本事業は、さらに低年齢の子ども達を対象に、農を基本においた地域づくりの活動団体と連携し、自然に触れたり、自分たちが食べる作物を育てたり、友達と深く関わり合えるプログラムとして実施する。</p> <p>プログラムを通して、みずみずしい感性を持つ幼少期・学童期に水、土、植物に触れることにより、親子で農業の大変さと素晴らしさ、食物の大切さと慈しむ気持ちを実感し、収穫の喜びと、命を感じ、共同作業から生まれる仲間を大切に思う気持ちを育み、豊かな心と体の成長をめざす。</p> <p>具体的には、農村地域の方々と交流しながら、食育や農の講座、自然観察教室、収穫・加工体験などを行う農業体験プログラムを 5 月～12 月にかけて行う。</p>
<p>講評</p>	<p>まちづくりに長年取り組まれてきた秋津野塾が主体となって運営している秋津野ガルテンとの連携や、周辺農家の参加・協力・指導を受けるなど、南紀の地域性を活かして“農業”の形を体験学習に取り入れ、『命』を考えることに着目したところが高く評価された。地域の資源やネットワークをつなぐ事業であり、農村地域での子育てネットワークとしても示唆に富んでいる。</p> <p>今後は、乳幼児など、さらに対象年齢を広げ、地域密着のプログラムの展開を計画している。これまでの活動実績や堅実なミッションから、事業の継続・発展は十分に見込めるものであり、大いに期待したい。</p>

■ 特定非営利活動法人 はらっぱ (兵庫)

『食育』 = 『大人の食への意識を育てる』

<p>団体概要</p>	<p>親と保育者とが子どもを真ん中にしてつながりあう場がほしいという願いから、1979年に「はらっぱ保育所」として設立。社会全体が、幼いもの、弱いもの、未熟なものを守り育む力を失いつつあることに起因して、子どもが置かれている状況はますます困難の多いものとなっている。そのような問題意識から、社会に働きかけるための広範な活動をめざして、2001年に法人格を取得した。</p> <p>主な活動内容は、はらっぱ保育所での保育と子育て相談、障がい児の放課後保育・障がい乳児の保育、講演会や親子教室の地域の子育て事業、絵画展覧会・ミニコンサートなど芸術文化活動、食育をテーマにした農家との連携活動などである。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、丹波での農業体験ツアー、収穫した作物での親子料理教室に加えて、保育園に通っていない親子が当団体の給食を食べる「はらっぱ食堂(仮)」を展開することで、新たなコミュニケーションの場を提供するものである。</p> <p>2003年から実施している農業体験ツアーと親子料理教室が好評なことから、参加者の食育への関心の高さを再認識した。他方、はらっぱのお昼ご飯をHPに掲載したところ希望が殺到して、孤立した食事の母子の存在に気づき、食は単なる栄養摂取ではなく心にとっても大切なことだと、認識したことによる事業である。</p> <p>農業体験、親子料理教室という企画から、「はらっぱ食堂(仮)」へと目的を進めて実施する。具体的には、①田植え・稲刈り・餅つきなど親子で農業体験、②収穫した米・野菜を使った親子の料理教室、③同年齢の子どもとの食事経験と情報交換で地域の子育てを支援する「はらっぱ食堂(仮)」、を行う。</p>
<p>講評</p>	<p>農業体験、料理教室など、これまでの活動実績により、本事業の基礎をしっかりと整えてきていること、次の企画として食堂という新しい事業展開につなげたこと、また、現代の孤立した母子の食環境の実態に対する問題意識から、当団体の食堂を地域のコミュニケーション・情報交換の場としても位置づけようとしていることが高く評価された。</p> <p>この事業が、団体のミッションでもある、地域全体がつながり、全ての子どもや親たちが健やかに育ち、生きる場所となるよう、さらに取り組みを進められることを大いに期待したい。</p>

■ 特定非営利活動法人 歴史体験サポートセンター楽古（奈良）
「ならまち歴史あそび～子どものものづくり体験支援事業～」

<p>団体概要</p>	<p>歴史をテーマとした体験学習を年齢や地域を限定せずに提供する活動を行い、世代を超えた学習、生涯を通じた学習、地域に根ざした学習をサポートしている。体験することの楽しさ、歴史を学ぶことの面白さを多くの人に感じてもらい、精神的に豊かな社会の実現に貢献することを目的に、2001年に設立された。</p> <p>主な活動は、様々な場所へ出張して提供するおでかけ歴史体験教室、体験講座の開催、2005年度からは八尾市立しおんじやま古墳学習館の指定管理者として運営と講座を担い、2009年度には奈良市奈良町に歴史体験工房楽古を開設するなど、歴史体験学習を提供する活動を幅広く行っている。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、歴史の残る町並みの中、ものづくり体験を提供する団体・施設が増えつつある「ならまち」において、「歴史」や「ものづくり」をテーマにした体験講座を年間通じて行うものである。自らが作る面白さと、昔の人たちへの驚き、感動や、異世代の講師達とのコミュニケーションなどの貴重な経験を提供する。</p> <p>具体的には、小学生～中学生を対象に、ならまち歴史あそびの体験講座を開催し、古代鏡ペンダント、土笛づくり、勾玉づくり、どんぼ玉、ミニ仏像づくり、竪穴住居作りなどを行う。また、出張体験教室や、様々な団体・個人と連携した体験工房マップなどのネットワーク化を進め、体験情報を提供できる体制を作る。</p>
<p>講評</p>	<p>歴史といえば、中高年を対象とする事業が多かったが、子どもに焦点を当てて事業化したところは新しい切り口であり、その点を高く評価した。また、歴史のある奈良での歴史体験講座は、地域資源の有効活用でもあり、周辺の文化財・体験施設との相乗効果も見込まれる事業である。</p> <p>体験学習は、博物館の見学だけでは得られない学習効果もあり、また、伝統工芸の職人や、ものづくり体験のできる施設とのネットワークを広げていく取り組みは、体験プログラムの拡大にもつながり、今後の事業の展開に期待が持てる。様々な体験をしたい子ども達や、体験をさせたい親達への情報提供の体制作りについても、参加者を増やしていく取り組みとして進めて欲しい。</p>